

第3回 幼・保・小合同研修会

日時 令和4年7月27日(水) 午後3時～午後4時40分

場所 ニコニコこども館 3階 会議室

教育講演

「特別な支援を必要とする子どもとの関わりについて」
～子どもの心に寄り添いながら～

郡山女子大学 家政学部 生活科学科
教授 小林 徹 氏



講師の小林先生は東京都の中学校教員として、特別支援学級を25年間担当されました。2022年より郡山女子大学家政学部生活科学科教授として特別支援教育の障がい児保育について講義をされています。また、郡山市教育支援委員会の委員として郡山市の子どもたちの就学について貴重な意見をいただいております。

今回は、特別な支援を必要とする子どもとの関わりについて、どのような点に留意し支援していけばよいのかを、先生の豊富な経験をもとにご指導いただくとともに、実践のヒントを学びました。

※参加者→幼稚園・保育所(園)・認定こども園・

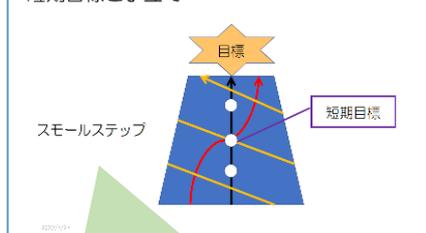
小学校関係者等 86名(内オンライン研修60名)



【講演の主な内容】

- インクルーシブ教育システム構築の重要ポイント
- 特別支援教育の充実を図るための取組の方向性
- 困難さの状況や指導上の工夫の意図、手立ての例の示し方
- 保育・保育現場でできることは・・・

短期目標と手立て



スモールステップは「小さな階段」、いきなり目標に到達するわけではないので、ニーズに合った手立てを考えよう。

■困難さの状況や指導上の工夫の意図、手立ての例の示し方

・生活や活動への見通しが持ちにくく、気持ちや行動が安定しにくい場合、当該児が理解できる情報(具体物、写真、絵、文字など)を用いたり、教員や仲の良い友達をモデルにして行動を促したりするなどの配慮を行う。

■保育・保育現場でできることは・・・

- (1) 観察する
- (2) 情報(虐待の有無や家庭環境)を集める
- (3) 記録する
- (4) 試してみる
- (5) 保護者の同士になる
- (6) 職員で共有する
- (7) 詳しい人を巻き込む

【アンケートから～参加者の声～】

○特別な教育的ニーズの考え方として、障がいの有無に関係なく、全ての子に必要なニーズであることを学び、私自身の保育・子どもに対する支援について振り返るきっかけとなりました。(保育士 女性)

○小林先生の実践事例の中の特別支援教育の魅力・やりがいについて、職員会議等で全職員に伝達し教育実践の力としていきます。(小学校 男性)